

## 障害者スポーツの裾野拡大で

# 誰もが輝けるスポーツの聖地へ！

「スポーツの聖地づくり」を合言葉に、スポーツの普及や交流などを目指す静岡県は、県民がスポーツに親しむ環境づくりやトップアスリートの育成などを積極的に進めている。今回は、障害者スポーツを「する」「見る」人の裾野拡大に関する取り組みを紹介する。

### 共生社会の実現に向けて

誰もが分け隔てなくスポーツを楽しむ、生きる喜びを享受することは、スポーツを「する」場面に限らず、「見る」場合においても同様であり、そこでは障害のある人もない人も変わりはない。誰もが輝ける地域づくりを目指す県は、障害者スポーツの振興に努め、障害のある人の社会参加を促し、県民の理解と支援を醸成する事業に取り組んでいる。

県は、東京2020パラリンピック自転車競技の県内開催を見据え、昨年度からパラサイクリングの裾野拡大に取り組み始

めた。パラサイクリングの活動団体発足や、同スポーツの練習会や体験会などを予定し、競技への参加機会拡大に努めている。競技用の自転車には、三輪のトライシクルや、手でペダルを回すハンドサイクルなどがあるが、障害のある人となない人が力を合わせて乗車するタンデム（二人乗り）は、共生社会を実現する上で象徴的な存在。県は、タンデム自転車を追加整備するとともに、パラサイクリングの活動を支援するサポーターの養成なども行っていく。

### 未来への大きな一歩

県は、誰もが走る喜びを体感

できることを知ってもらうため、日常生活で義足を使用して子どもたちを主な対象に「みんなと一緒に走りたい！静岡県ブレードランニングクリニック」を令和2年9月に開催した。クリニックでは、競技用義足の講習や体験会に加え、パラリンピック・メダリストの山本篤選手（掛川市出身）や佐藤圭太選手（藤枝市出身）らによる指導も行われ、参加した子どもたちは皆、走ることに爽快感に歓喜していた。その意味では、競技用義足で走る経験は、障害のある人のスポーツの可能性拡大や、将来のトップパラアスリート育成の大きな一歩になり得る。



タンデム自転車の練習会。児童・生徒は風を切る感覚に笑顔を見せた。



ブレードランニングクリニック。パラリンピックメダリストによる指導も行われた。



障害者スポーツ応援隊。子どもたちは実技指導を受けながらパラアスリートと交流した。

トップレベルのパラアスリートが県内の小中学校や特別支援学校などを訪問する「障害者スポーツ応援隊」事業も県民の意識醸成に大きな足跡を記すことになるだろう。リオパラリンピックに出場した本県ゆかりの選手による講演会や実演・実技指導には、活字や映像を超える強い力があり、その感動が障害者スポーツへの理解と参加意欲を掻き立てるからだ。応援隊の活動は令和2年度中に17回を目標に行われている。

### 生きる喜びがある世界

県が推進する障害者スポーツの裾野拡大事業は、「トップアスリート支援」「スポーツ参加機会の拡大」「障害者スポーツを支援する県民意識醸成」という3層から成る。県はそれぞれの層に即した取り組みを進めており、障害のある人の県内最大のスポーツ大会である「わかふじスポーツ大会」や、障害者スポーツの体験会などを開催し、障害者スポーツの普及・振興やパラ

スリートの発掘に努めてきた。「スポーツの聖地づくり」を進める県の姿勢は、障害者スポーツにおいても、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、生きる喜びを享受できる世界を実現する、大きな推進力になるだろう。



プラスチック製の円盤（ディスク）を投げて競うスポーツ。どれだけ遠くに飛ばせるかを競う種目（ディスクス）と、正確に金属の輪を通せるかを競う種目（アキュラシー）がある。



グラウンドソフトボールは視覚障害者の野球で、1チーム10人で競技する。中に鈴などが入っていない、ハンドボールと似たボールを使用し、男女の区分はない。

## FUJINOKUNI INTERVIEW

### ブレードランニングで走る喜びを！

義肢・装具士  
竹中 邦徳さん  
(株)松本義肢製作所 静岡営業所



明治38年創業の(株)松本義肢製作所で義肢装具士として活躍する竹中邦徳さんは、日々障害のある人と向き合っている。「義肢は、一人ひとりに合わせて作ります。特に切断部との接触面になるソケット部分は、試行錯誤と微調整を繰り返して丁寧に仕上げる必要があります。大切なのは障害のある人との信頼関係。それがなければ安

心して義足を使用して頂くことができません。日頃、義足を使う人と接していると、皆さんの「走ってみたい」という声を耳にします。走ることは人間の本質的な欲求なのかもしれません。日常の義足でも多少は走れますが、スポーツには適しません。今回、ブレードランニングクリニックに参加した際、障害のある子どもたちがピョンピョンと

跳ねて、目を輝かせていたのに驚きました」。日常の義足は公的補助などもあり、比較的安価で購入できるが、スポーツ用の義足は公的補助が認められていないため、購入のハードルは極めて高い。「最近では、もう少し安価で購入できるような、ブレードの開発が行われているので、障害のある人にもっとブレード

ランニングの魅力を紹介する窓口になればと思います。今後もスポーツに専念できるような、痛みのないソケットを製作していきたい。そんな活動を通して、一人でも多くの人に走る喜びを感じてもらえたら嬉しいですね」。障害者スポーツに対する県民の意識醸成は着実に進んでいる。